



Monthly

# さいがただより

National Hospital Organization Saigata Medical Center

2019年5月 Vol.24



トキワイクリソウ (妙高山)

発行：独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター 院長 下村 登規夫 <https://saigata.hosp.go.jp/>  
〒949-3193 新潟県上越市大潟区犀潟 468-1 TEL:025-534-3131 FAX:025-534-4824

## 〈基本理念〉「良い医療を安全に、心をこめて」



### 平成から令和へ—私たちの目標はかわらない—

国立病院機構 さいがた医療センター 院長 下村 登規夫

桜が咲いたと思ったら、あっという間に散ってしまい、4月だというのに雪が降りました。地球温暖化が原因だといわれていますが、最近の不安定な気候の変動はそれを裏付けているものかもしれません。

我が国における人口減少、超高齢化社会の到来は疾病構造の変化をもたらしつつあります。このような変化は、医学界においても大きな変革をもたらし始めています。iPS細胞の積極的臨床応用に代表されるように医学の発展は目覚ましいものがあります。希少疾病においても、診断技術の向上や酵素補充療法（ERT）など先進的な医療の導入は、疾病の治療手段を大きく変化させつつあるものに違いないといえるでしょう。

さて、視点をさいがた医療センターに移してみると、精神科の運営が極めて安定しつつあることがまず挙げられるでしょう。もちろん村上院長特任補佐と佐久間精神科診療部長、当院の精神科医の努力をはじめ、国立病院機構全体のご支援のたまものであることは言うまでもありませんし、最高の連携者として野村内科系診療部長が加わっています。院長は、入院患者の紹介依頼書を廃止し、「入院患者さんは全スタッフの患者である。」という考え方のもと、「現在当院で提供できる最高の医療を提供する。」を新しい合言葉として、日本で屈指の医療の提供に努める努力をしています。そのためには、放射線科医長、整形外科医長、検査科医師の存在も忘れることができません。そして、何といたっても、病院全体のメディカルスタッフ全員のバックアップが最大の武器となっています。

そして、私たちは「臓器別診療」をしていません。患者さんの訴えるすべての症状をできるだけ一元的に説明できる医学的解釈を行っているのです。これは、「人を単なる臓器の集まりではなく、すべての臓器が有機的に結びついている人」を診療しているということに基づいています。ですから、さいがた医療センターの診療はやさしいという評価を受けているものと自負しています。

特殊外来・専門外来も加わりました。これまでの頭痛・睡眠時無呼吸・慢性疲労（年齢制限あり）に加えて、アディクション（依存症）外来が加わってさらに充実しています。これからもさいがた医療センターを応援してください。



1 P…○平成から令和へ—私たちの目標はかわらない—

2 P…○アディクション（依存症）診療部門

- クロザピンの治療状況
- 放射線画像診断の受入（共同利用）
- デイケア
- 重症心身障がい医療（ショートステイ）
- 神経難病医療
- 認知症医療
- 訪問看護

「独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター」

**アディクション(依存症)診療部門**

精神科診療部長 佐久間 寛之

当院では平成30年9月より依存症治療プログラムを開始しました。お酒の問題だけでなく、違法薬物や処方薬依存、ギャンブル依存など、依存症全般を対象に診療を行っています。ご本人、ご家族からのご相談はもとより、行政機関からのケース相談にも対応しております。

また発達障害・高次機能障害の診療も行っております。当院では精神科医・臨床心理士による検査とアセスメント、多職種チームによる介入を行っています。また高次機能障害については、脳神経内科と精神科が連携体制を取っています。お困りの方、どうぞお気軽に受診相談のお電話をください。

**クロザピンの治療状況**

薬剤科

平成30年8月より治療抵抗性統合失調症の患者さんに対してクロザピン治療を開始しました。現在24人の患者さんが服用しています。先月には1人の患者さんが治療経過が良好で退院しました。

令和元年5月新規2例、累計26例(5月20日現在)

**神経難病医療**

脳神経内科

当院の脳神経内科は80床あり、主にパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多系統萎縮症・筋萎縮性側索硬化症の薬物調整・リハビリテーション目的の入院を受け入れています。

また、地域包括ケアシステムの実現に向けて退院支援に力を入れており、多職種間で協働するためにカンファレンスの充実を図り、患者さんにより良い援助・支援の提供を心がけています。地域における神経難病中核病院としての機能充実に努めています。

空床情報: 5月20日現在 12床

**放射線画像診断の受入(共同利用)**

診療放射線科

当院は、CT(80列)、MRI(1.5T)、そして上越地域では数が少ないSPECT装置を有しております。また、放射線画像診断医が常勤でおりますので、検査結果がすぐにわかります。

この画像診断体制で、国立病院機構の役割の1つ“地域での医療の提供”の一環として、地域の医療施設からの検査依頼もお受けしています。お急ぎの場合には当日検査にも対応しています。ぜひご利用ください。

4月実績 MRI 9件、CT 7件、SPECT 0件

**認知症医療**

心理療法室

精神科と脳神経内科及び内科の各担当医師が連携して、幅広い視点から原因となる病気の特定に努めております。

また、当院にはCTスキャン、MRIが設置されており、診療放射線技師や読影をする放射線画像診断医が常駐しておりますし、脳波計を用いたより精密な検査や臨床心理士による神経心理学検査も実施可能です。お気軽にご相談ください。

**デイケア**

リハビリテーション科

当院では、社会生活機能の回復を目的として難病や精神障がいを持つ人のデイケアを実施しています。

難病デイケアは、毎週月・水・木に実施しており、身体機能の維持・向上だけでなく、仲間づくりも支援しています。

精神デイケアは、毎週月曜日から金曜日まで、精神障がいの回復途上にある人が社会の中で自立した生活ができることを目指して実施しています。見学や相談、参加希望の方はお気軽にご相談ください。

**訪問看護**

看護部

地域で安心して生活していただくために入院時から関わらせていただき、医師、ケースワーカー、作業療法士と連携しながら、病状や服薬に関する支援、家族への支援など、利用者の方に必要な支援を行っています。訪問は看護師の他、必要に応じてケースワーカーも同行し、書類作成や社会資源の利用などのご相談についても支援させていただきます。

**重症心身障がい医療(ショートステイ)**

療育指導室

当院の重症心身障がい病棟では、「医療型短期入所」(通称:ショートステイ)の受け入れを行っています。

当院のショートステイは、在宅で生活されている重症心身障がい児者を対象に、申込み頂いた一定期間を病棟でお過ごし頂き、食事の他、ご利用の曜日等によっては入浴や日中活動も提供しています。また、日帰り利用や他の通所事業所の利用後に宿泊を伴う利用等も可能となっています。

利用される方や地域のニーズ等も取り入れ、利用しやすいサービスが提供できるよう取り組んでまいりますので、お気軽にお問い合わせください。

ショートステイ: 4月延べ 22日 空床情報(長期利用: 5月20日現在 2床)

**外来担当医表**

←こちらのQRコードよりご覧いただけます